

## 対応状況報告書

大 学 名： 神戸大学

評価実施年度： 令和3年度

報 告 年 度： 令和6年度

対象となる基準	基準5-3
改善を要する点	○海事科学研究科博士課程後期課程において、実入学者数が入学定員を大幅に下回っている。
対応状況	<p>・海事科学研究科（博士課程後期課程）：1.00倍（令和4年度）、1.27倍（令和5年度）と改善されている。</p> <p>上記の改善を要する点の指摘に対して、海事科学研究科においては、令和3年4月入学者から、職業を有し、就業している者、家事、育児、介護等の事情を有する者などを対象とした「長期履修制度」を設けた。また、令和5年度から、海技教育機構や商船系高等専門学校に所属する教員または海上技術安全研究所に所属する研究者などに対して、「海事系教育・研究機関の社会人 Dr 入学者に対する支援制度」を設けた。</p> <p>その結果、定員11名に対し、入学者は11名（令和4年度）及び14名（令和5年度）であり、入学定員充足率は1.00倍（令和4年度）及び1.27倍（令和5年度）であった。令和元年度から令和5年度までの5年間の入学定員に対する平均比率は0.84倍であり、入学定員充足率は改善した。</p> <p><b>【根拠資料・データ】</b> 資料1 神戸大学大学院海事科学研究科長期履修規程 資料2 海事系教育・研究機関の社会人 Dr 入学者に対する支援制度</p>

(注)

1. 機構で受けた大学機関別認証評価において、「改善を要する点」として指摘された事項の対応状況について記入してください。
2. 「改善を要する点」には、評価結果報告書の「II 基準ごとの評価」の【改善を要する点】に記載された内容をそのまま転記してください。

3. 「対応状況」には、「改善を要する点」として指摘された事項に関して改善された状況の具体的な内容及びその改善を実現した取組について、根拠資料・データ等とともに「対応状況」欄に記入してください。
4. 根拠資料・データ等は、その名称を記載のうえ、別添として添付してください。評価結果の追記公表の際に併せて公表しますので、資料番号については、既存資料と重複しないよう、既存資料の資料番号以降の連番としてください。
5. 評価を受けた年度の翌年度を一年度目として起算した場合の三年度目の6月30日までに改善していると判断していない事項については、対応状況欄にその旨のみを記載してください。

## 対応状況報告書

大 学 名： 神戸大学

評価実施年度： 令和3年度

報 告 年 度： 令和6年度

対象となる基準	基準5-3
改善を要する点	○理学研究科博士後期課程において、実入学者数が入学定員を大幅に下回っている。
対応状況	<p>理学研究科（博士課程後期課程）：0.674倍（令和元年度～令和5年度）であったが、令和6年度は0.778倍に改善傾向にある。</p> <p>(1) 博士課程後期課程の入試機会の増加          理学研究科では博士課程後期課程の10月入試は、第I期（12月）、第II期（2月）、第III期（8月）であった。10月入学において、外国人向け入試時期を在留許可とVISA発行を余裕を持って行えるように8月入試より前の入試を実施し機会を増やすことを議論した。これにより令和6年度10月入試より、5月入試を増設し、現在、第I期（12月）、第II期（2月）、第III期（5月）、第IV期（8月）と入試回数を増やした。令和6年度は、この入試ほか8月入試があるため数名増える予定である（1名外国人の受験あり5月末合格発表）。</p> <p>(2) 広報活動の強化          ・理学研究科HPにて博士課程後期課程に関する情報を発信しており、WEBにおいて博士課程後期課程学生のキャリアパスなどについて紹介している。また、最近、博士課程前期課程の入学ガイダンスにおいて後期課程での研究生活についても触れるようにし、学生の研究活動に対する意欲の向上に務めている。          ・令和6年度には、研究科HPに博士課程後期課程の学生に向けた、博士課程修了後の進路や博士課程学生への就学支援に関する情報を集約させた日本語版、英語版のHPの作成やプロモーションビデオの作製を検討し、内容の充実化を図ることとなった。          ・社会人博士学生については、年数がかかり仕事との両立への負担</p>

が大きいことが課題であるが、今後、負担軽減策を議論していく予定である。具体的な例としては、社会人向けハイブリッド授業、オンデマンド授業などによる社会人でも受講しやすくする工夫などの教務規則の柔軟化に関わる検討を行うこととした。

- ・外国人ドクターの増加についての議論も進めることとした。郵送による願書出願システム制度が受験の妨げになっている可能性があり、今後、WEB 出願等のシステムを検討していくこととした。

#### (3) 博士課程後期課程学生への研究支援

神戸大学プレミアム・プログラムを周知し、海外での研究活動や研究成果報告を推奨している。また、研究室レベルでは、科学研究費補助金などを利用し、国外で行われる国際会議での発表を支援している。

#### (4) 博士課程後期課程学生へのキャリア支援

- ・OB・OG 交流会を毎年実施し、博士課程後期課程学生のキャリア支援を行っている。

- ・全学的には SPRING 採用学生は、全学のキャリア教育や企業へのインターンシップ、企業とのマッチング等の就職支援を受けている。

#### (5) 博士課程後期課程学生への経済的支援

- ・SPRING、神戸大学フェローに多数の博士課程後期課程の学生が採用され、経済的支援と研究費の支給を受けている（人数：新 SPRING 38 名）。

- ・博士課程後期課程への進学時に成績により、1 名ではあるが進学一時金を支給している。（一時金の額：120 万円）

- ・JASSO 奨学金に関して、優れた研究業績をあげた博士課程後期課程学生に奨学金の免除などを行っている。とくに、博士課程後期課程から入学する学生に対しては SRA として入学金相当の経済支援を行うなど入学における経済負担の減免措置を行っている。

- ・これとは独立に、RA に雇用し経済的支援を行っている。

#### 【根拠資料・データ】

理学研究科 HP <http://www.sci.kobe-u.ac.jp/jyukensei/index.htm>

(注)

1. 機構で受けた大学機関別認証評価において、「改善を要する点」として指摘された事項の対応状況について記入してください。
2. 「改善を要する点」には、評価結果報告書の「Ⅱ 基準ごとの評価」の【改善を要する点】に記載された内容をそのまま転記してください。
3. 「対応状況」には、「改善を要する点」として指摘された事項に関して改善された状況の具体的な内容及びその改善を実現した取組について、根拠資料・データ等とともに「対応状況」欄に記入してください。
4. 根拠資料・データ等は、その名称を記載のうえ、別添として添付してください。評価結果の追記公表の際に併せて公表しますので、資料番号については、既存資料と重複しないよう、既存資料の資料番号以降の連番としてください。
5. 評価を受けた年度の翌年度を一年度目として起算した場合の三年度目の6月30日までに改善していると判断していない事項については、対応状況欄にその旨のみを記載してください。